



問 市民の生命を守る津市の救急医療体制を問う

市民の生命を守る津市の救急医療体制について、いつでも、どこでも、誰もが適切な救急医療を受けられる体制を構築することが求められている中、令和6年4月から三重大学医学部附属病院が全ての曜日で輪番病院をバックアップする新たな二次救急医療体制に移行した。この新たな二次救急医療体制の成果を問う。

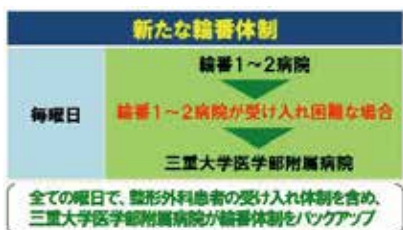
答 新たな救急医療体制の構築で救急搬送状況は大きく改善された

津市における救急件数は増加傾向にあり、令和6年中に救急搬送をした人数は過去最多を記録した。新たな救急医療体制が始まった令和6年4月から12月までのデータによると、救急搬送状況を示す指標として使われる重症以上の傷病者を搬送する際の病院照会回数4回以上の割合は2.5%（令和5年から3.6ポイント改善）、現場滞在時間30分以上の割合は8.1%（同4.4ポイント改善）となった。新たな救急医療体制に移行する前はいずれも全国平均より高い数値であったが、移行後は全国平均より低い結果となり、救急搬送状況は大きく改善された。

その他の質疑・質問

- 令和8年1月1日に津市は合併20年を迎えるが、津市の歩みに対する評価と新たなビジョンは
- 津駅西口駅前広場の整備について、これまでの意見募集等の集約結果と基本計画への反映は
 - 線路沿いの駐輪場整備の今後の進め方は
- 教育方針における市民ニーズの具現化は
- 令和7年度における放課後児童クラブの整備は

三重大学医学部附属病院が輪番体制をバックアップすることでさらなる体制強化が図られた



問 教員が担うべき業務に専念できる支援体制強化の具体策は

小中学校等の教員が余裕を持って授業準備や教材研究を行うことのできる時間を保障し、授業力や対応力の強化を図るための環境を整えることは教育委員会の責務である。教員の業務負担軽減を図り、子どもと向き合う時間を確保するためには、教員業務支援のための関係職員（教員支援員等）の継続的な配置は欠くことができない状況であることから、今後の配置計画等について問う。

答 教員支援員に代わる仕組みを作り上げるため議論を進める

教育現場の教員の負担軽減、時間外勤務の削減を目的として、津市独自に、行政経験などのある再任用職員を教員支援員として10人、20校に配置するとともに、国の制度であるスクール・サポート・スタッフを令和3年度から全校に、現在では87人を配置している。学校からの人気が高い教員支援員には再任用職員を配置しており、定年延長により人数が少なくなる一方で、スクール・サポート・スタッフだけでは支援として十分ではないと考えることから、再任用職員の配置に代わる仕組みを作り上げていくため、今後、総合教育会議などで議論していきたい。

その他の質疑・質問

- 小中学校等における「多様な学び」を支える人的支援に関して
 - 津市臨時講師（教育課題対応講師等）について
 - 特別支援教育支援員について
 - 学校サポーター、学級支援サポーターについて
- 学校施設の防水改修工事について
- バイク駐車場の整備について など

排気量に関係なく、全てのバイクが駐車できる「二輪駐車場」の駅周辺への設置が望まれる

